会議の概要

会議の名称	令和6年度 第3回 あま市人権施策推進審議会
開催日時	令和6年9月30日(月) 午後2時から午後3時まで
開催場所	あま市役所庁舎 2階B会議室
議 題	(1) 「あま市ファミリーシップ宣誓制度要綱(案)〈概要〉」に対するパブリックコメント結果について (2) あま市ファミリーシップ宣誓制度要綱(案)について (3) 審議会から市長へ答申 (4) その他
会議資料	資料1 「あま市ファミリーシップ宣誓制度要綱(案)〈概要〉」に対する意見及び市の考え方 資料2 あま市ファミリーシップ宣誓制度実施要綱(案) 資料3 あま市ファミリーシップ宣誓制度利用者が活用できる行政サービス
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数 (公開した場合)	1名
出席委員	加藤 美由紀 横井 公雅 渡辺 雅樹 近藤 哲夫 服部 光雄 鈴木 正夫 吉田 憲司 村上 千代子 吉川 朝博
欠席委員	なし
事務局	市民生活部長 長谷川 真二 人権推進課長 飯尾 新也 主 幹 堀田 久美子 課長補佐 中島 康晴 係 長 加藤 昌也

議事内容

議題 (1) 「あま市ファミリーシップ宣誓制度要綱 (案) 〈概要〉」に対するパブリックコメント結果について	
事務局	(資料に沿って説明)
会 長	反対意見と賛成意見が存在することが報告された。32 番では、問題発生時の責任所在についての問いが出され、この制度における責任は市が持つと同時に、私たちも審議を行い、そして LGBTQ+の人たちが安全に安心して生活できるようなあま市を実現していく気持ちを持っている。これは、人権尊重のまちづくり条例の理念に基づいている。その上で、委員の皆さんの意見を求める。
委 員	詳細な説明を通じて理解を促進し、意見を出した人々にその理由を理解してもらえると考えている。この新たな取組に対しては、不安を感じる人が多いのが現状。しかし、私たちはこの制度を信頼し、推進するという基本の立場を持ちつつ、その基盤を固めていくことが必要だと考えている。この要綱が強固な基盤のもとに成立することを期待しているが、しかしながら、要綱と条例の違いについて、説明を求める。
事務局	地方自治法を見たところ、要綱についての規制は明記されておらず、最も詳細な規定は規則までとなっている。条例は法律となり、権利や身分に関する規定を設けることができ、一方で、要綱は事務手続き上の内部規定の一種で、条例とは異なる性質を持つものと解釈する。
会 長	私の理解だが、条例は法律に準ずるものとされ、議会の議決が必要になる。それに対して、要綱は議会の議決は必要なく、行政側で作成・変更が可能な内部規定という理解。私自身も議員としての経験があり、これらの違いについては理解している。
委 員	議会の審議しなくてもいいということか。
会 長	<p>私達は積極的に議論を進め、この要綱は、障がいを持つ人を含むすべての人々が生きやすい社会を目指す一環として作られていると理解している。健常者が障がい者の視点に立つことは難しいが、それでも健常者として障がい者が遭遇する問題を考え、不測の事態への対応などのさまざまな視点から議論を進め、社会全体が誰もが快適に生きていけるような、誰もが生きがいを持って生きられるような社会を目指すべきだと考えている。</p> <p>そういう意味で、障がい者の声だけでなく、LGBTQ+の方々の声も大切にすべきだと思う。さらに、これはファミリーシップ制度の本質だと理解している、そのため、私たちは真剣にこの問題に取り組んできた。</p> <p>他に何か意見は。</p>

委員	<p>私も反対の意見を読んだ。制度が導入されるまでの時間はあまりなく、その期間に市民の皆様に対して十分な情報提供と理解を深める周知活動が必要だと思う。</p> <p>また、今後、この制度が導入されたら、利用可能なサービスをどのように充実していくか、市として努めていくべきだと考えている。市民の皆様がこの制度を理解し、納得して活用できるようになるためにも、市側の取組が求められる。</p>
会長	他に。
委員	<p>私は、健常者の人ばかりのところで行動してきた。旧甚目寺町のときから話は聞いている。なかなか溶け込めれない状況もある。交わることもなかったから。だから、いつもどうしたらいいか、ということの方が先に立ってしまう。</p>
委員	<p>賛成 8、反対 28 の意見ということであったが、賛成の方々からは、新しい制度を理解するために周知、認識、教育が必要だという声。一方、反対の方々については、本当に勉強されて、読んでいても勉強になった。</p> <p>また、少数派の意見や要望も重要であることを再認識した。少数だからと言って彼らの意見を無視することはできない。彼らもまた、困難を抱え、サポートを必要としている。故に、制度を理解するための周知活動や教育、そして少数派の意見を尊重し、周囲が支援できるような社会が重要だと改めて感じた。全ての市民が生きやすい環境を作るためには、これらが必要と理解している。</p>
委員	<p>愛知県の方でも新しい施策、取組をする場合、パブリックコメントを実施し、意見を聞いている。パブリックコメントの回答を見て、新しい施策や計画を実施する際の難しさを理解した。また、市民の間で十分な理解や認識が得られていない現状も感じる。</p> <p>そのため、今後は、この制度がどのような形になるにせよ、地域の方々に向けて啓発する機会を作ることが重要だと思う。</p>
委員	<p>パブリックコメントを拝読し、市民の様々な意見、性的少数者に対して深い理解を示す方々からの賛成意見や制度導入に対して懸念を表す反対意見を理解した。ファミリーシップ宣誓制度を導入することは、性の多様性についての理解推進と、同性カップルの権利や存在の認知は社会全体の進歩につながる。同時に、当事者の生きづらさを軽減し、快適な生活を可能にする大きなメリットがあると感じている。</p> <p>一方、反対意見で、審議会への不信感も感じられたが、これまでも審議会は公開の場で行われており、全ての議論が透明性を保っている。反</p>

	<p>対意見を持つ市民や議員の方々には、これまでの議論を是非理解していただきたい。</p> <p>そして、何よりも重要なことは、この市で LGBTQ+の方々が生きづらさを感じている実態を理解し、それを解消する必要があるということ。制度の導入は、これらの方々の人権を守り、市での生活をよりよくするための制度だと思う。</p> <p>制度が導入された場合、その運用には十分な配慮が必要。サービス提供者や利用者に対する配慮、アウティング問題を含む人権について、そこは十分配慮をお願いしたいと思う。私としては、制度を導入し、快適な生活をもたらすために進めていくべきだと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>パブリックコメントを読むと、多様な生き方があるように意見も多様であると感じた。関心のある人は積極的に自分の見解を提出するが、一方で関心が薄い人は自分の意見をあまり述べないか、あるいは反応がはっきりしていない。</p> <p>新しい事を始める際には、必ず反対意見が出る。全員が、全員同じ意見を持つことは困難。そのため、各々の意見を尊重しながら、きちんと説明し、理解を得ることが大切。</p> <p>新しい制度を導入する際には、誠心誠意の説明と、一人でも多くの人々に理解を求めていくことが必要であると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>皆さんがおっしゃる通り、それぞれの視点からこの問題を考えることが大切だと思う。私たちは、あま市の住民を代表して、当事者の視点から考え、彼らがこの市に住んでよかったと思えるような支援をする役割を担っている。</p> <p>自分の生活や経験から考えて、理解できないことも多いかもしれないが、社会の流れや現代の課題をしっかりと捉え、それぞれの立場に立って理解しようと努力することが求められる。新しいことに対する挑戦は、時に問題を引き起こすかもしれないが、それを解決するための新たな視点や策を見つける機会でもある。</p> <p>制度導入に対する反対意見のなかには、あま市が、愛知県の要綱を代用すればよいというものもあったが、それは少し考え違いをしているように見える。手続きや事務的な部分は、あま市が独自に考え、運用しなければならぬので、愛知県の制度をそのまま持ってくるわけにはいかない。反対意見を持つ方たちへ、我々の気持ちや考えを親切に伝える機会があれば、理解を深めるきっかけになるかもしれない。新しい制度を導入し、そこから生じる問題には地道に取り組む。このような姿勢が今</p>

	の社会の進むべき方向、そしてあま市が取り入れるべき制度だと思う。
会 長	それぞれの意見をお聞きして、事務局としての考え方は。
事務局	市としては、皆様からの意見がある中で、責任を持って進んでいく事になる。法的効力のない要綱だが、市が強い意思表示をしていく必要があると考えている。
会 長	市民全体に対する周知徹底は大変重要。市としては、制度の理解を深めるために、広報や講演会などの機会を通じて、情報の発信を行っていく。そして、すべての市民がこの制度の意義や効果を理解し、不利益を被らないような取組を進めていく。 皆様と共に、この制度を実りあるものとして発展させていくべく、真摯に取り組んでいく。今後ともご協力をお願いする。
委 員	合併当初から、性的マイノリティに対する理解は確かに深まってきたが、これは決してゴールではなく、課題解決の一步に過ぎない。国や国際社会の動きを踏まえながら、何をすべきか、何が最良な道なのかを市として引き続き勉強していく必要がある。
会 長	委員の皆さんの意見をお聞きした。是非とも、事務局、そしてあま市として、この要綱制度を市民に伝達をしていただき、そして、啓蒙、啓発をしていくことが、まず一番大事なことだと思う。この制度については、皆様のご理解と支持を得て進めていく。
議題 (2) あま市ファミリーシップ宣誓制度要綱 (案) について	
事務局	(資料に沿って説明)
会 長	あま市ファミリー制度の実施要綱 (案) ということで、何か意見は。
委 員	これまで、あま市ファミリーシップ宣誓制度要綱ということで議論してきた。今回、提案されたのは宣誓制度実施要綱という「実施」ということが書いてあった。実施というところをお聞かせ願う。
事務局	法規担当者からのアドバイスを受けて、「実施」を追加し、より具体的な取組を明示する形にした。
会 長	あま市ファミリーシップ宣誓制度要綱ということでよろしいか。
事務局	実施要綱とさせていただきます。
委 員	実施の方が、合う感じがする。私は大賛成。
委 員	読ませていただいたが、非常にしっかり丁寧に作られた要綱だと考える。 この制度は、他の自治体を見ると、制定後も一部改正を行うなど、本制度の多様化に対応している状況があると思う。 今後も愛知県や他の自治体を含めて、常に社会の動向を把握し、対応

	していく必要があると考えるが、市として今の考え方についてお伺いする。
事務局	<p>国や県の動向も注視し、あま市ファミリーシップ宣誓制度に関してもそれらの情報を踏まえつつ適切に運用していきたいと考えている。</p> <p>国が推進する LGBT 理解増進法や愛知県が取り組む少子化対策などは、市の未来を担う若者たちに直結する重要な事項であり、それらを踏まえた上で、市としても幅広い支援ができるよう制度の運用、改善に努めていく。</p>
委員	自治体間連携協定を、他の市町村が締結している点について、今後検討するのか。
事務局	制度導入後に協定を結び、この要綱についても連携に関する改正する予定でいる。
議題 (3) 審議会から市長へ答申	
事務局	令和6年1月29日付、市長からあま市人権施策推進審議会へ「あま市のファミリーシップ制度導入に関すること」についての諮問に対し、ただいまより、答申の受理を行う。
会長	(市長へ答申)
市長	<p>答申を受け、ここで私から本制度の導入について決意を述べさせていただきます。</p> <p>本制度導入に対するパブリックコメントにおいて、反対の意見が多かったという結果を受けた。</p> <p>私自身、その反対の意見の多さ、様々なご意見に対し、真摯に受けとめる。厳しい状況の中ではあるが、審議会から答申をいただいたことに対して厚くお礼を申し上げたい。</p> <p>この本制度は、私が言うまでもなく、この審議会でかなり議論をされたと思うが、平成27年10月にパートナーシップ宣誓制度が東京都世田谷区で導入されたこと、ここからが始まりであり、それ以降、各自治体の制度導入が進み、令和6年6月には459の自治体が導入をし、総人口カバー率85%を超えるような状況になっている。</p> <p>このような各自治体の取り組みが進む中、国は性的マイノリティの方々の生きづらさを解消するための法案「LGBT理解増進法」を昨年6月に制定し、愛知県内では35の自治体が取り組みを進めている。</p> <p>県においても、令和6年4月から愛知県ファミリーシップ宣誓制度を導入しており、また本制度は、自治体によって年々多様化している。</p> <p>県では、子ども等を含む制度として運用しており、多様な家族形態にある子どもの人権を守るための差別、偏見を解消するための重要な制度としていくとともに、現代社会の少子化対策を見据えた上でも、現代の若者の結婚に対する価値感の多様化や、将来の結婚や出産を取り巻く現</p>

	<p>状と課題について理解を深める制度の1つと考えている。</p> <p>今回のパブリックコメントにおいては、導入する必要性があるのか、子どもの尊厳を失われるといったご意見もあったが、本市では性自認に悩み、周囲に打ち開けられず、悩んでいる方々の実態もあり、周りの理解が進むことを望んでいるところでもある。</p> <p>また、答申にもあったように、あま市人権尊重のまちづくり条例について、社会情勢の変化や、人権に関わる新たな課題に対し、私たち行政は、その解決に向け、積極的な取り組みが求められていると謳っている。</p> <p>本制度は、現代社会の多様な家族が社会生活を送る上で、直面する困難を軽減し、多様性を尊厳、尊重する社会の実現に向けた大変重要な制度と考えており、制度導入によって、市民がともに支え合いながらお互いの人権を尊重し、思いやりの心に溢れた社会の実現をより推進するため、私の決意を持って取り組んで参りたいと考えている。</p> <p>重い制度ではあるが、引き続きの皆様方のご理解とご協力を賜ることをお願い申し上げ、私からの決意とさせていただきます。</p>
アドバイザー	<p>この審議会に参加し、いろいろな意見をいただいた。パブリックコメントを通じ、性的マイノリティに対する理解がまだまだ浸透していない現状を改めて認識した。要綱案の16条にも記載されているように、ファミリーシップ制度が実現した際には、引き続き、あま市の啓発等に協力したいと思っている。</p>
会長	<p>貴重なご意見に基づき、私たちは改めてこの制度の充実を目指していく。皆様のご協力、ご支援に感謝し、これからもあま市ファミリーシップ制度をより良いものにしていく。</p>
委員	<p>もう終わったから何とも言えないが、答申については、内容を確認し、市民の皆様を集約し、反対意見だけでなく、賛成者の懸念も含めて対応する必要があると認識している。</p>
会長	<p>委員の皆様、本日は貴重なご意見をいただき感謝するとともに、今後より良い施策を進めていく。</p>
事務局	<p>本日は、多数のご意見をいただき感謝する。</p> <p>この制度導入に向けてのパブリックコメントや審議会委員の皆様意見についてもしっかりと反映していく。</p> <p>一人ひとりが尊重され、多様性を認め合える社会づくりに向けて、皆様のご協力を引き続きお願いしたい。</p>